

<ダイジェスト版>

環境報告書 2014

～小さくても光る大学～



国立大学法人
電気通信大学
Unique & Exciting Campus

トップメッセージ

環境、自然、社会、文明、エネルギー等々の諸問題を解決して調和を図るためには、コミュニケーションを欠かすことはできません。

なぜならば、コミュニケーションは人と人との相互作用だけではないからです。

例えば、細胞同士もコミュニケーションを取っていますし、経済活動においては貨幣というコミュニケーション手段が流通しています。あるいは、生命活動に欠かせない太陽の光や熱もエネルギー交換というコミュニケーションと捉えることができます。

このように、自然と社会との相互作用を含めた広い意味でのコミュニケーションの在り方を考えることが、電気通信大学が提唱する新しい概念である総合コミュニケーション科学です。

人と人、人と自然、人と社会の相互作用に加えて、文明の発達した現代では、コミュニケーションを媒介する人工物と人の関係も重要です。

例えば携帯電話はたいへん便利な道具ですが、2011年に発生した東日本大震災直後には多くの基地局が津波に流されて通信途絶に陥ったことにより、大きな課題を浮き彫りにしました。社会が想定外の事態に見舞われた場合には、本来コミュニケーションを促す人工物がかえってコミュニケーションを阻害する要因になりかねないという問題です。

こうした問題の解決には多くの学問領域が関連してきます。

科学技術が発達し人工物がますます複雑化していくこれからの時代、コミュニケーションに関連する学問を個別に推し進めるだけでは限界があります。

そこで総合コミュニケーション科学では、人、自然、社会にまたがる既存の学問領域をよりどころに、コミュニケーションという視座からの新たな研究開発を通じて互いの関係性を明らかにするとともに、それらを融合させた新しい学問の創出や、社会的課題を解決する総合的な科学と技術の構築をめざしています。

人、自然、社会、人工物、の間の「モノ」、「情報」、「エネルギー」の移動・交換を含めた相互作用の観点にたって、健全な地球環境、安全安心な社会、心豊かな暮らしを持続させてゆくために、相互コミュニケーションに基づいた価値創造を目指すことが必要です。

その根幹を成す概念が「総合コミュニケーション科学」です。

本学の環境配慮の取組について、毎年、環境報告書にまとめ公表していますが、これも、高等教育機関としての「人材の育成」、最先端科学の研究成果による「社会への貢献」、既存の学問分野にとらわれない「知と技の創造」を通じた「総合コミュニケーション科学」の成果を表すもののひとつとなっています。

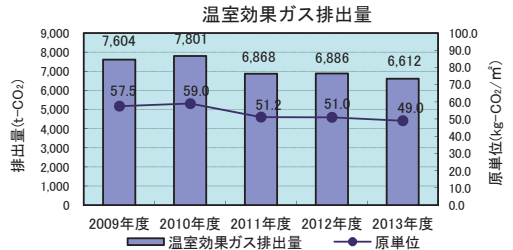
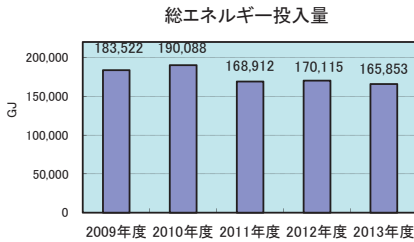


環境配慮の取組状況

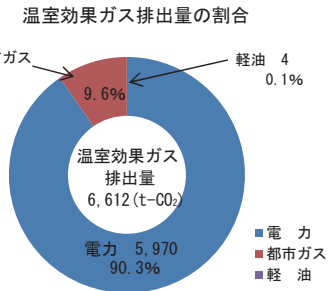
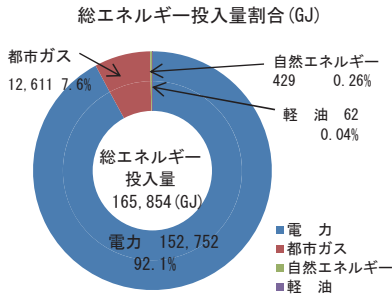
1 地球温暖化対策

目標：温室効果ガスの削減を図るために省エネルギーを徹底する。

東京都の「温室効果ガス排出量削減義務と排出量取引制度」により、第1計画期間（2010年度から2014年度）における各年度の排出量を、基準排出量7,785t-CO₂/年に対して8%削減しなければなりません。（目標値：年平均7,163t-CO₂）そのため、計画的に省エネルギー等環境関連対策事業を推進しています。

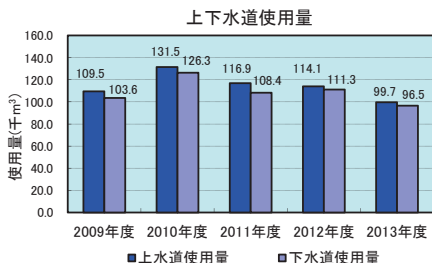


※ 2011年度以降の削減は、東日本大震災後の省エネルギー意識の向上と定着び改修による建物の省エネ化によるところが大きいのですが、次期第2計画期間（2015年度から2019年度）の17%削減のために、更なる省エネルギー対策等排出量削減へ向けた取組が必要になります。



2 省資源、廃棄物の抑制

目標 1：水使用量の削減に努める。



上下水道

上水は地下水と水道水を利用しており、通常は地下水が上水全体の99%を占めています。

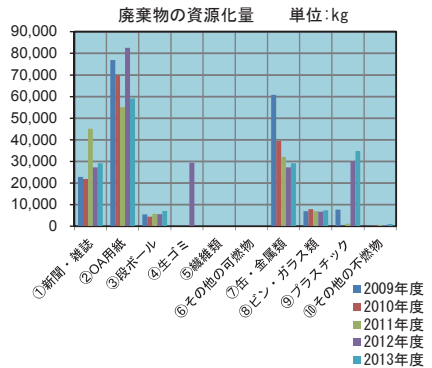
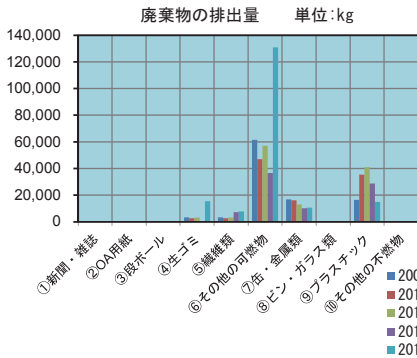
節水対策として改修工事で手洗い器の自動水栓や節水型便器の交換などを実施しています。

2013年度は99.7千m³と、前年度より14.4千m³ (12.6%) 使用量が減少しています。

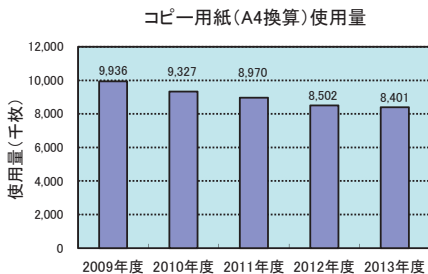
下水排水量についても2013年度は96.5千m³と、前年度より14.8千m³ (13.3%) 減少しています。

目標 2 : 省資源で廃棄物を抑制し、リサイクルに努める。

安全・環境保全室が総合的な廃棄物の一元管理を行い、適正な分別や保管のルールを定めています。「可燃」「不燃」「ミックスペーパー」「ペットボトル」「缶類」「ビン類」の分別ボックスを学内に設置し、教職員・学生に周知徹底しています。



目標 3 : 紙類の削減に努める。



ペーパーレス化の取組による、会議資料閲覧システムやプロジェクターの使用により、紙資源の削減を図っています。また役員会等主要会議における配布資料のペーパーレス化のため、電子会議システムを2010年度から導入しました。これらの取組等によりコピー用紙の使用量は2009年度をピークに穏やかに毎年度削減しています。2013年度は8,401千枚と、前年度より101千枚(1.2%)、2009年度と比較すると1,535千枚(15.4%)削減しました。

雨水の地中還元

建物の新築工事や大型改修工事の時には、雨水浸透施設を設置し、雨水をすみやかに地中に浸透させることにより、下水道管に流れ込む雨水量を抑制しています。これにより大雨のため下水道で雨水が流しきれなくなって浸水被害を起こしたり、雨水で希釈された汚水が川や海に流れ出て水質を悪化させたりすることを防止します。



西2号館改修工事での雨水浸透施設
穴の空いた浸透柵や浸透管により地中に雨水を還元します。

2013年度のトピックス

○大災害に負けない機能整備

多摩ICT拠点の構築

災害の発生によりサーバー室の設備が故障しても、学内外との接続を維持してサービスを継続するとともに、全国の大学、研究機関等の学術情報基盤である、学術情報ネットワークSINET多摩地区の拠点校として、大切なデータを災害から守るため、サーバー用電源として長時間使用可能な非常用発電機設置、耐震サーバーラックへの変更、ネットワークの切断時に対応する衛星通信システム導入等の整備と、無線LANアクセスポイントの設置を行いました。

災害発生時も多摩地区の大学や本学の学生等に対して、災害や安否等の情報を提供するとともに、地域住民や帰宅困難者に対してもインターネットの接続サービスを提供するなどが可能になり、地域の情報システムの拠点としても責任を果たすことができます。



長時間使用可能な非常用発電機



本館屋上の衛星通信システム用
パラボラアンテナと無線LAN
アクセスポイント



正門守衛所の無線LAN
アクセスポイント



耐震サーバーラック

屋内避難場所機能の強化

災害時の屋内避難場所として使用するため、B棟に太陽光発電設備を設置し、講堂には本館に太陽光発電設備と蓄電設備を設置して、非常用電源を確保しました。

また、講堂ロビーの天井を落下防止対策として耐震天井に改修し、災害時用の照明を省電力のLEDに交換しました。

これらの整備により、通常電力が不通となっても夜間照明や暖房等の電源が確保でき、安全な避難場所として使用できるようになりました。



B棟太陽光パネル



講堂ロビー耐震天井とLED照明



本館蓄電設備



本館太陽光パネル

○バラの苗植え

2013年4月12日、本部棟東側に新たに設けられた花壇に梶谷学長（当時）、児玉理事らによってバラの苗植えが行われました。この花壇は環境整備の一環として、東門付近を整備して緑地帯化した一角に設けられたものです。「調布花・はな」の皆さんに整備していただき、リンカーンやチャールストン、オフエリアなど四季咲きのバラ10種11本を植えました。



○東京都による毒物劇物の取扱い及び保管状況等確認

東京都による毒物劇物の取扱い及び保管状況等確認の立入調査が2013年11月6日に行われ、東京都の関係部局の担当者が学内の該当箇所を検査しました。結果は法違反に該当する管理上の不備はありませんでした。別に指導事項として容器の表示、震災対策、薬品の区別、危害防止規程への補足等の指導があり、それらの対応を進めました。



○中門の信号機設置

本学の東西キャンパスを結ぶ中門の横断歩道に信号機が設置されました。

中門横断歩道への信号機設置は、学生・教職員、近隣の住民の方々の交通安全をはかる上で久しく懸案となっており、2010年度「キャリアデザインC」（現「エンジニアリングデザイン」）の学生プロジェクト「電通大ウォーカー」（学内交通環境改善チーム）の活動の中で行った調布警察署への提案要望が認められ、設置の運びとなり、中門信号機設置記念灯入れ式を2014年2月12日に開催しました。



○ニュートンのりんごの木

東京農工大学より「ニュートンのりんごの木」を寄贈していただき、2014年3月26日に寄贈記念植樹式が行われました。このりんごの木は、接木の形で1964年に日本に贈られ、そこからさらに日本各地の教育機関等に広まっていき、東京農工大学へは1982年に苗木が譲られ、同大学で根付いた株から接木した苗木を本学へ分けていただいたものです。本館前の緑地に2本植樹しました。



○青鉄平石の再利用歩道

体育館の改築工事にあたり、体育館周辺に敷かれていた青鉄平石が不要になったため、東9号館西側に移設しました。この場所は通路ではありましたが、普段から人が行き来しけもの道のようになっていたので、青鉄平石の移設により歩道として使用できるようになったことと、自然石を取り込んだ景観が好評です。





国立大学法人電気通信大学環境方針

わたしたち人類は文明の発展とともに、地球の温暖化、化学物質による汚染など、さまざまな環境問題に直面しています。

電気通信大学は、人類にとって地球環境の保全が最も重要な課題の一つであるとの認識に立ち、自然と人間の共存、環境との調和に寄与し、教育・研究活動による環境負荷の低減に努めます。

また、武蔵野の面影が残る緑豊かなキャンパスを維持し、地域に貢献し開かれた大学を目指します。

このため、次の事項を推進していきます。

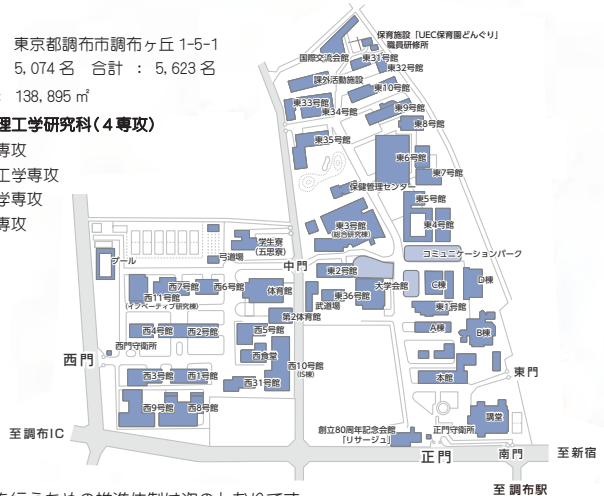
1. 教育・研究活動から生じる環境負荷の低減と、環境の維持・改善
2. 省エネルギー・省資源、資源リサイクルへの取り組みの推進、グリーン購入の徹底
3. 本学に適用される環境関連法規、条例等の遵守
4. 武蔵野の地にふさわしい緑豊かなキャンパスの保全、環境の維持・改善活動のための地域社会や自治体との連携・協力
5. この環境方針を達成するために目標の設定と、教職員、学生及び学内関連事業者の協力による実現

この環境方針は文書化し、本学の教職員、学生、大学生協など常駐する学内関連事業者に周知するとともに文書やインターネットによるホームページを通して、本学関係者以外へも広く公表します。

平成18年9月25日

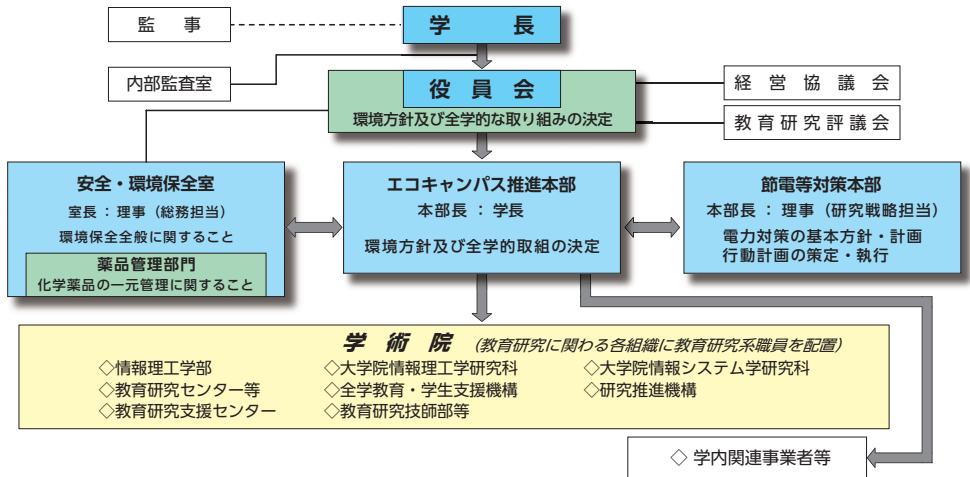
大学概要

- 国立大学法人 電気通信大学
- 教職員：549名
- 土地：115,433㎡
- 情報理工学部(4学科, 1課程)
- 総合情報学科
- 情報・通信工学科
- 知能機械工学科
- 先進理工学科
- 先端工学基礎課程
- 大学院情報システム学研究所(4専攻)
- 情報メディアシステム学専攻
- 社会知能情報学専攻
- 情報ネットワークシステム学専攻
- 情報システム基礎学専攻
- 教育研究センター等の組織
- 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1
- 学生数：5,074名 合計：5,623名
- 建物面積：138,895㎡
- 大学院情報理工学研究所(4専攻)
- 総合情報学専攻
- 情報・通信工学専攻
- 知能機械工学専攻
- 先進理工学専攻



環境配慮の推進体制

環境保全活動を計画・実施し、環境配慮の対策を行うための推進体制は次のとおりです。



環境報告書の作成にあたって

- 参考としたガイドライン等
 - 環境省「環境報告書ガイドライン～持続可能な社会をめざして～(2012年版)」2012年4月
 - 環境省「環境報告書の記載事項等の手引き(第3版)」2014年5月
- 対象年度 2013年度(2013年4月1日～2014年3月31日)
- 対象組織範囲 電気通信大学調布キャンパス(学生寮、国際交流会館は除く)
- 発行日 2014年9月(2013年度環境報告書発行日:2013年9月、次回発行予定:2015年9月)
- 環境報告書の編集・問い合わせ先
 - 国立大学法人電気通信大学 安全・環境保全室
 - 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1 TEL: 042-443-5052 FAX: 042-443-5061
 - 本学に関するお問合せ <http://www.uec.ac.jp/inquiry/>
- 環境報告書2014本編について
 - 本編は次のHPで公表しています。 <http://www.uec.ac.jp/about/publicinfo/eco.html>